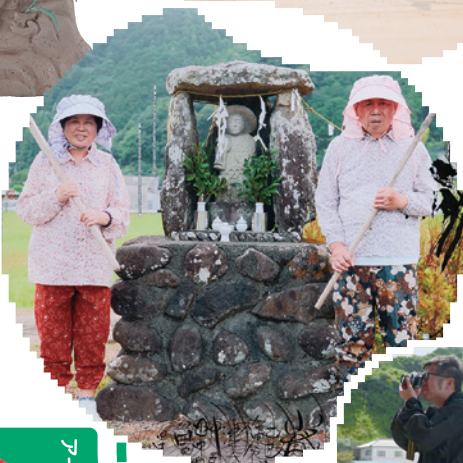


What is the level of water in a dipper?

Walking Grass Agriculture CHEN Han-Sheng & LIU Hsing-Yu

The concluding solo exhibition of Artist in Residence Tsunagi 2025

Dual Solo Exhibition



アーティスト・イン・レジデンスつなぎ2025成果展

おたまの中の水はどのくらい?

走路草農藝團

陳漢聲 & 劉星佑

デュアル個展



つなぎ美術館
TSUNAGI ART MUSEUM

アーティスト・イン・レジデンスつなぎ2025 成果展

おたまの中の水はどのくらい？

ソウルツァワウソクアーティストコロン
走路草農藝團 陳漢聲 & 劉星佑
デュアル個展

What is the level of water in a dipper?

Walking Grass Agriculture CHEN Han-Sheng & LIU Hsing-Yu

The concluding solo exhibition of Artist in Residence Tsunagi 2025

Dual Solo Exhibition

はじめに

津奈木町は、水俣病からの地域再生を目指し、1984年にアートによる町づくりを始めました。その活動拠点として、2001年に開館したのが、つなぎ美術館です。2014年に始まった「アーティスト・イン・レジデンスつなぎ」では、毎年1人のアーティストを招聘してきました。台湾からアーティストを招聘するため、2019年に準備を始めましたが、コロナ禍により計画が中断している間に、台湾の半導体受託製造企業の熊本進出が決まりました。津奈木町のアートを通じた台湾との交流は、期せずして台湾の半導体企業の熊本進出と時期が重なりましたが、このことは両者の経済や文化を多面的・多角的に捉え、さまざまな可能性や課題を共に考え、互いに理解を深める機会となるのではないのでしょうか。

今回、招聘した陳漢聲（チェン・ハンシェン）と劉星佑（リウ・シンヨウ）から成るアートユニット「走路草農藝團」は、農業や自然環境などに関する社会問題をテーマに、台湾南部の高雄市を拠点に活動しています。陳と劉は2025年8月から11月にかけて、津奈木町や近隣地域を中心とした熊本の風土や信仰、生態系と人の営みなどについてリサーチを重ね、時には鹿児島まで足を延ばし、制作に臨みました。

台湾の半導体受託製造企業の進出により、従来の農業と最新テクノロジー産業の共生を模索する熊本の現況は、すでに両者が交錯し、経済的に発展しながらも、さまざまな課題を抱える陳と劉の故郷であり活動の拠点でもある高雄の状況と重なりました。急速な社会の変化にともない、国境を越えた経験と英知が求められる中、陳と劉が津奈木町で生み出した数々の作品は、限られた資源の分配、伝統的な信仰や価値観の変容、不可逆的な生態系の喪失といったテーマに私たちがどのように向き合うべきかをユーモアを交えながら静かに問いかけます。「アーティスト・イン・レジデンスつなぎ2025」の成果展である「おたまの中の水はどのくらい？」は、「走路草農藝團」としての作品展、陳の個展、劉の個展の三部構成となっており、いずれも津奈木町滞在中に制作した新作を展示しました。

津奈木町では、これからさらに身近になるであろう台湾と熊本の文化面での交流を、これまでに培ったノウハウやネットワークを生かしながら深めていきます。本事業の実施にあたり多大なるご協力をいただきました方々に厚く御礼申し上げます。

つなぎ美術館

Greeting

The town of Tsunagi began its art-led community development in 1984, with the aim of regional revitalization in the wake of Minamata disease. To serve as a base for these activities, Tsunagi Art Museum opened in 2001. Since the launch of the "Artist-in-Residence Tsunagi" program in 2014, the museum has invited an artist each year. Preparations to invite an artist from Taiwan began in 2019; however, during the disruptions caused by the COVID-19 pandemic, plans began to take shape for a Taiwanese semiconductor foundry to establish operations in Kumamoto. This coincidence offers an opportunity to view the economies and cultures of both regions from multiple perspectives, to reflect together on various possibilities and challenges, and to deepen mutual understanding.

The art collective *Walking Grass Agriculture*, consisting of Chen Han-Sheng and Liu Hsing-Yu, is based in Kaohsiung, southern Taiwan, and addresses social issues related to agriculture and the natural environment. From August to November 2025, Chen and Liu conducted extensive research on the climate, beliefs, ecosystems, and everyday lives of Tsunagi and surrounding areas in Kumamoto, sometimes traveling as far as Kagoshima in the course of their project.

The current situation in Kumamoto—where coexistence between traditional agriculture and cutting-edge technology industries is being explored due to the expansion of Taiwanese semiconductor companies—overlaps with that of Kaohsiung, the artists' hometown and base of activity, where these sectors already intersect, generating economic growth while also giving rise to various challenges. Amid rapid social change and an increasing demand for transnational experience and knowledge, the works created by Chen and Liu during their stay in Tsunagi quietly and humorously question how we should confront issues such as the distribution of limited resources, transformations in traditional beliefs and values, and the irreversible loss of ecosystems. The exhibition "Artist-in-Residence Tsunagi 2025," titled *What is the level of water in a dipper?*, is structured in three parts: an exhibition by *Walking Grass Agriculture*, and solo exhibitions by Chen and Liu. All works on view were newly created during their residency in Tsunagi.

The town of Tsunagi will continue to deepen cultural exchange between Taiwan and Kumamoto, whose ties are expected to become increasingly close in the future, by drawing on the expertise and networks cultivated to date. We extend our sincere gratitude to all those who generously supported the realization of this project.

Tsunagi Art Museum

地球という「おたま」の中で

楠本智郎 つなぎ美術館 主幹・学芸員

本展タイトルの「おたまの中の水はどのくらい？」は、アートユニット「走路草農藝園」のメンバーである陳漢聲と劉星佑が京都の古物店で目にした「杓底一残水」という言葉に由来している。これは、日本における曹洞宗の宗祖である道元が残した言葉であり、柄杓に汲んで自分が飲んだ残りの水は無造作に捨てず、元の流れに戻すことで再び人の役に立つ、という教えである。つまり、本展のタイトルは地球という「おたま」の中の「水」に象徴される資源などを、人類はいかに分配し、共有すべきかを問うている。

熊本で2020年頃に始まった台湾の半導体受託製造企業の進出は、地域経済の転換点として位置づけられ、日本の経済安全保障強化の象徴ともされてきた。しかし、半導体製造が大量の水資源とエネルギーを必要とする産業であることは広く知られており、自然環境への負荷は避けたい問題として浮上している。熊本といえば、自然環境と人間などの身体に深刻な被害をもたらした公害病の原点ともされる水俣病が広く知られている。近代化にともなう経済成長を優先する国策と企業活動が結びついた結果、不都合な事実は長く不可視化されてきた。本展は、このような歴史と社会的背景を抱える熊本において、重工業都市としての歴史をもつ台湾南部の高雄市に生まれ、現在もそこを拠点に活動する陳と劉によるアートユニット「走路草農藝園」の実践を通して、自然、伝統、記憶、産業、テクノロジーなどの関係がどのように再編されるのかを考える契機となった。

「走路草農藝園」は、制作と生活、労働と美術表現の区別を意図的に曖昧にしてきた。その活動は、農作業、採集、移動、記録といった日常的行為を基盤とし、美術作品の制作を特別な行為として切り離すことを拒んでいる。本展の最初の展示室では、陳の《遊び心のあるオブジェクト—津奈木町のみかんの木》と、劉の《8月の水俣港》などが、

壁面の大きなガラス展示ケースの中に混在するように配置されている。両者の作品は、それぞれが個別に完結するのではなく、ひとつの空間を構成する要素として展示されている。この展示ケース内において「走路草農藝園」の共同性は、理念としてはなく、空間的配置と身体的関与によって成立している。鑑賞者は、誰の作品を見ているのかを即座に判別する必要はなく、その曖昧さの中で作品の関係性、あるいは作品が象徴するモノやコトの関係性を模索することになる。

陳は、津奈木町の「田の神」像や自然物を参照しながら、領域横断的な手法で作品を制作した。そこでは、民俗信仰は過去の遺物として固定されるのではなく、現在もなお関係を結び直すための契機として扱われている。《田の神と蝶》では、人が近づくと、蝶が動力装置によって羽ばたくように動き出す。「田の神」像そのものにも、本来存在しないはずの蝶の触角が付与されている。陳がフィールドワークの最中に目にした数々の蝶は完全変態の象徴であり、ここでは「田の神」そのものが変化の過程にあるものとして立ち現れ、信仰は不変ではなく、環境や身体との関係の中で変化し続けることを示唆している。《スーパー田の神》や《田の神と野草》でも草木が動力装置によって揺れ動く。これらキネティック・アートとも呼ばれる動く作品は、田の神を静的な象徴から、鑑賞者との相互作用のなかで反応する動的な存在へと転換する。映像作品の《田の神と旅に出る》と《田の神、南から北へ》において、「田の神」は特定の土地を拠点としながらも、旅を通じて別の文脈へと移動する存在として示されている。この移動は、土地と信仰の乖離ではなく、信仰が状況に応じて形を変えながら継承されてきたことを意味している。いくつかの作品で見られる16bitで表現された「田の神」像は、あえて粗いピクセルの単位に還元することで、産業の変化によって暮らしや風景が変容しても、時代に応じ

て更新されながら集団的記憶の中に存在し続ける信仰のあり方を浮かび上がらせている。陳の作品に見られる「遊び心」は、伝統的な信仰や文化、制度を軽視する態度ではない。それらを固定化する力に対し、意味のずれや再配置を通じて、別の関係を生成するための提案である。

劉の写真作品において被写体となっている男女は、劉の両親である。これらの写真は、男女の衣装を入れ替えたうえで結婚写真を想起させる構図を取りながらも、祝祭的な演出を意図的に避けている。両親は、特定の役割や物語を背負うことなく、土地の前に静かに立っている。その姿は、時間をかけて変化してきた関係そのものを写し取っているようにも見える。劉はこの「演じなさ」を通して、ジェンダーや家族規範がいかに社会的に構築されてきたかを逆説的に示している。同時に、それは自然環境との関係においても有効な態度であり、人間が土地に「溶け込む」ことも土地を「支配する」こともなく、あくまで擬態的にそこに在るという選択肢を提示している。この距離感こそが、劉の作品に通底する倫理であり、人間と自然の関係を再考するための重要な視座となっている。

三枚の写真から成る《1/125秒の赤崎小学校同級生》では、中央には赤崎の海辺を象徴する風景の中にカメラに背を向けて小さく佇む両親、その左右には両親の肖像が配置されている。そこでは、人物と風景は同じ時間の中に並置され、家族は制度として語られるのではなく、時間と距離によって成立する関係として表されている。また、津奈木町の豊かな水源地を舞台とした《水の時間》からは、かつて高雄の水資源をテーマとしたインスタレーションを制作した経験をもつ劉ならではの環境問題への持続的な関心がかがえる。写真を展示する空間に設置された幾つもの立体作品は、人へ警告を発する標識を想起させるものの、ユーモアを交えた戯画的な手法と書の技法によって、人と人、あるいは人と自

然物との関係が理解や合意に至る以前の、不安定ではあるが自由な状態を保持する装置として機能している。つまり、劉は展示空間全体で、それらの関係が完全に回復されるという幻想ではなく、未回復の状態をそのまま引き受けるという姿勢を示しているのである。

陳と劉の実践に共通するのは、断絶の解消よりも、断絶を抱えたまま関係を結び続けようとする態度である。このような態度は、想像力を既存の秩序の内部で完結させるのではなく、異質な他者や経験とのあいだに新たな関係の可能性を開き続ける力として捉え、それが民主的な公共圏の形成につながるとするマキシム・グリーンの思想とも通底する¹。本展は、国策や環境破壊、あるいはジェンダーの問題を直接的に告発するものではない。しかし、それらの歴史と現況を前提としたうえで、関係がいかに持続しうのかが展示空間のなかで示している。

展覧会タイトル「おたまの中の水はどのくらい？」は、資源の量だけでなく、自らが汲み取ったものをどのように扱い、いかに流れへと戻すのかという倫理を問うものでもある。地球という「おたま」の中の水は有限でありながら偏在している。その扱いは、制度だけでなく、私たち一人ひとりの身振りにも委ねられている。さらに、そこに伴う責任とは外部に指定されるものではなく、関係を構築する行為のなかで生成される。本展は、その責任の生成過程を可視化し、それを他者に委ねるのではなく、関係の只中に立つ私たち自身へと静かに差し戻す試みであった。

1. マキシム・グリーン 『想像力をときはなつ—アートと教育が社会を変える』(上野正道・桐田敬介・近藤真子・園部友里恵訳) 勁草書房、2025年

Within the “Dipper” That is the Earth

KUSUMOTO Tomoo Chief Curator, Tsunagi Art Museum

The exhibition title, *What Is the Level of Water in a Dipper?*, derives from the phrase *Shakutei ichizan sui* (“the single drop of water remaining at the bottom of a dipper”), which Chen Han-Sheng and Liu Hsing-Yu—members of the collaborative art group *Walking Grass Agriculture*—encountered at an antique shop in Kyoto. The phrase originates from the teachings of Dōgen, founder of the Sōtō school in Japan. It conveys the idea that the water remaining in a dipper after one has taken a drink should not be discarded carelessly, but returned to its original stream so that it may once again serve others. In this sense, the exhibition title raises the question of how humanity ought to distribute and share the resources symbolized by the water in the dipper—the Earth itself.

The expansion of a Taiwanese semiconductor contract manufacturer into Kumamoto, which began around 2020, has been positioned as a turning point for the regional economy and framed as emblematic of Japan’s efforts to strengthen economic security. Yet semiconductor manufacturing is widely understood to require vast quantities of water and energy, making the environmental burden an unavoidable concern. Kumamoto, for many, inevitably recalls Minamata disease, the pollution-related illness that caused profound damage to both the natural environment and human bodies. As a result of the alignment between national policies prioritizing economic growth through modernization and corporate activity, inconvenient truths have been long rendered invisible. Within this historical and social context in Kumamoto, the exhibition offers an occasion to consider how relationships among nature, tradition, memory, industry, and technology might be reconfigured through the practice of *Walking Grass Agriculture*, the collaborative art group formed by Chen Han-Sheng and Liu Hsing-Yu, who were born in Kaohsiung in southern Taiwan—a city shaped by the history of heavy industry—and who continue to base their activities there.

Walking Grass Agriculture has deliberately blurred the boundaries between artistic practices and everyday life, as well as between labor and artistic expression. Their practice is grounded in

everyday activities such as farming, gathering, moving, and recording, and it resists isolating the making of artworks as a privileged or exceptional act. In the first gallery of this exhibition, works such as Chen’s *Playful Object—A Mandarin Tree in Tsunagi* and Liu’s *Minamata Port in August* are intermingled within a large glass display case installed along the wall. Rather than functioning as discrete, self-contained pieces, the works by the two artists are presented as constituent elements of a single spatial composition. Within this display case, the collaborative nature of *Walking Grass Agriculture* is realized not as a conceptual idea, but through spatial arrangement and embodied engagement. Viewers are not required to immediately determine which artist created which work; rather, within this ambiguity, they are invited to explore the relationships among the works themselves, as well as those among the objects and phenomena the works symbolize.

Drawing on the *Tanokami* (rice field deity) statues of Tsunagi and natural materials, Chen created works using cross-disciplinary approaches. Here, folk belief is not fixed as a relic of the past but remains a catalyst for reconfiguring relationships. In *Tanokami and the Butterfly*, a butterfly begins to flap its wings through a mechanical device when a viewer approaches. The *Tanokami* statue itself is also given butterfly antennae—features it would not originally possess. The many butterflies Chen encountered during his fieldwork, symbols of complete metamorphosis, reappear here as a means of presenting the *Tanokami* as a being in the midst of transformation. Faith, in this context, is not immutable; it continues to shift in relation to its environment and the human body. In *Super Tanokami and Tanokami and the Wild Grass*, plants likewise sway through motorized mechanisms. These moving works—often described as kinetic art—transform the *Tanokami* from a static symbol into a dynamic presence that responds to viewers through interaction. In the video works *Traveling with Tanokami and Tanokami, from South to North*, the deity is presented as rooted in a specific locality yet capable of moving into different contexts through

travel. This movement does not signal a separation between land and belief; rather, it suggests that belief has been sustained by transforming its form in response to changing circumstances. In several works, the *Tanokami* figure appears in a 16-bit pixelated form. By deliberately reducing the image to coarse pixels, Chen evokes a mode of belief that persists within collective memory—even as industry reshapes landscapes and ways of life—by continually updating itself in accordance with the times. The sense of play evident in Chen’s works is not an attitude that disregards traditional belief, culture, or institutions. Instead, through displacements and reconfigurations of meaning, it proposes alternative relationships in response to forces that seek to fix and stabilize such relationships.

In Liu Hsing-Yu’s photographic works, the man and woman who appear as subjects are his own parents. Although the photographs adopt compositions reminiscent of wedding portraits—after exchanging the clothing typically associated with each gender—they deliberately avoid any celebratory staging. His parents stand quietly before the landscape, unburdened by prescribed roles or narratives. Their presence seems to capture the very relationship that has evolved gradually over time. Through this “refusal to perform,” Liu paradoxically reveals how gender roles and family norms have been socially constructed. At the same time, this stance also offers a viable way of relating to the natural environment: one in which human beings neither “blend into” the land nor seek to dominate it, but instead remain there in a mimetic manner. This sense of distance constitutes the ethical thread running through Liu’s practice and offers a crucial perspective for reconsidering the relationship between humanity and nature.

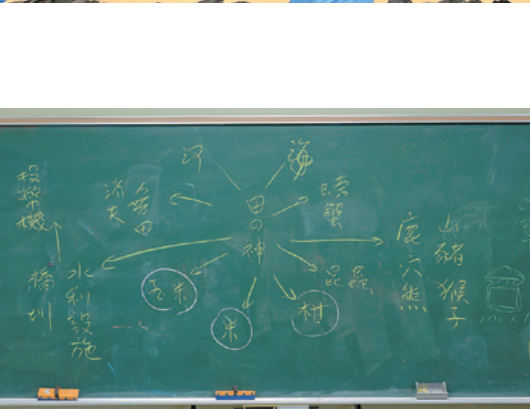
In *Akasaki Elementary School Classmates—1/125 sec*, composed of three photographs, at the center Liu’s parents appear small and turned away from the camera, standing within a landscape emblematic of Akasaki’s seashore. Flanking this scene on either side are their portraits. Here, figures and landscape are juxtaposed within the same temporal frame; family is not articulated as an institution, but as a relationship formed through time and distance. Similarly, *Shared Moment*, set at Tsunagi’s abundant water sources, reflects Liu’s sustained engagement with environmental issues—an interest informed by his earlier installation work addressing water resources in Kaohsiung. Several

sculptural works installed in the space where the photographs are exhibited evoke warning signs addressed to viewers. Yet, through humorous caricatural expression and calligraphic techniques, they function as devices that sustain a condition that is unstable yet open—one in which relationships between people, or between humans and natural entities, remain prior to full understanding or agreement. Across the exhibition space as a whole, Liu does not propose the illusion that such relationships can be fully restored. Rather, he articulates an attitude that accepts their unresolved state as it is.

What Chen Han-Sheng and Liu Hsing-Yu share in their respective practices is not the resolution of ruptures but an attitude of remaining in relation while carrying those ruptures forward. Such an attitude resonates with the thought of Maxine Greene, who understood imagination not as something confined within existing orders but as a force that continually opens possibilities for new relations with others and with different experiences, thereby contributing to the formation of a democratic public sphere.¹ This exhibition does not directly denounce national policy, environmental destruction, or gender issues. Rather, while taking their histories and present conditions as given, it demonstrates within the exhibition space how relationships might nonetheless be sustained.

The exhibition title, *What Is the Level of Water in a Dipper?*, questions not only the quantity of resources, but also the ethics of how we handle what we ourselves have drawn up—and how we might return it to the flow. The water contained within the “dipper” of the Earth is finite, yet unevenly distributed. How it is handled depends not only on institutions but also on the gestures of each of us. Moreover, the responsibility this entails is not something located externally; rather, it emerges through the very act of forming relationships. This exhibition was an attempt to make visible the process through which such responsibility emerges and, rather than delegating it to others, to quietly return it to ourselves, who stand in the midst of those relationships.

1. Maxine Greene, *Releasing the Imagination: Essays on Education, the Arts, and Social Change*. Translated by Masamichi Ueno, Keisuke Kiritra, Shinko Kondo, and Yurie Sonobe. Keiso Shobo, 2025.





走路草農藝團 (ゾウラーツァウノンイートワン)

走路草農藝團は、2014年に台湾南部の高雄市で、ビジュアルアート、デザイン、キュレーションを行うアートユニットとして結成されました。メンバーは、高雄市の山間部で実家が農業を営む、陳漢聲(チェン・ハンシェン)と劉星佑(リウ・シンヨウ)で、それぞれニューメディアアートと美術史を専門としています。現地での体験と観察を重視する彼らは、丁寧なフィールドワークによって、自然環境、人々の暮らし、有形・無形の文化に関する情報を収集し、自身の幼少期からの農業体験を生かしながら、独自の視点と手法で作品へと昇華させてきました。近年は、世界情勢が激変する中、生態と環境、都市の変化、ジェンダー問題にも関心を寄せています。最初の展示室では、主に鹿児島県に分布し、熊本県南部が北限とされる田の神の像に注目し、地域の民間信仰と自然環境を融合させた新作や、集めた大切な品々を収納・鑑賞するために清代に生まれた伝統的な玩具箱である「多宝箱」に倣った新作などを展示しました。

Walking Grass Agriculture

Walking Grass Agriculture was formed in 2014 in Kaohsiung, southern Taiwan, as a collaborative art group engaged in visual art, design, and curatorial practice, comprising CHEN Han-Sheng and LIU Hsing-Yu, both from farming families in the mountainous regions of Kaohsiung. Chen specializes in new media art, and Liu in art history. Emphasizing firsthand experience and observation, they conduct meticulous fieldwork to gather information on natural environments, everyday life, and tangible and intangible cultural practices. Drawing on their own childhood experiences in agriculture, they have sublimated these findings into artworks through distinctive perspectives and methodologies. In recent years, their practice has expanded to include ecology, environment, urban transformation, and gender issues in response to rapidly shifting global conditions. In the first gallery, they presented new works focusing on *Tanokami* (rice field deity) statues—found mainly in Kagoshima Prefecture, with their northern limit in southern Kumamoto—integrating local folk beliefs with the natural environment. They also exhibited new works inspired by *duobaoxiang* (treasure boxes), traditional toy chests originating in the Qing dynasty that were used to store and display cherished collected objects.



陳漢聲
田の神と蝶

CHEN Han-Sheng
Tanokami and the Butterfly



陳漢聲
田の神と野草

CHEN Han-Sheng
Tanokami and the Wild Grass



劉星佑
旅としての祖廟参り

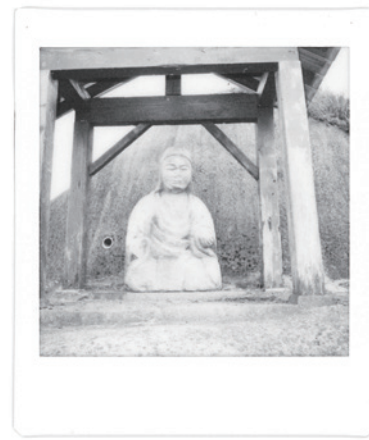
LIU Hsing-Yu
Ancestral Temple Visit as a Journey



中尾田中地区の田の神



末永の田の神



湧水町真中馬場の田の神



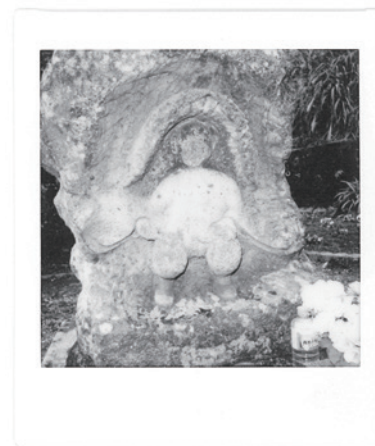
御内馬場の田の神



柳水流の田の神



牟礼の田の神



新村の田の神



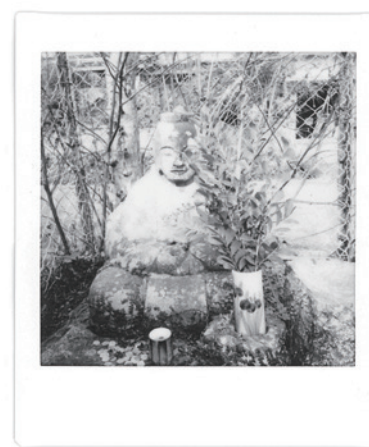
触田の田の神



茄子の田の神



大山東の田の神



木田の田の神



高峯の田の神



陳漢聲
みかんと四季

CHEN Han-Sheng
A Mandarin and Four Seasons



陳漢聲
田の神の祝福

CHEN Han-Sheng
Tanokami's Blessing



陳漢聲

田の神と四季

CHEN Han-Sheng

Tanokami and Four Seasons

陳漢聲

遊び心のあるオブジェクト — 津奈木町のみかんの木

CHEN Han-Sheng

Playful Objects — A Mandarin Tree in Tsunagi



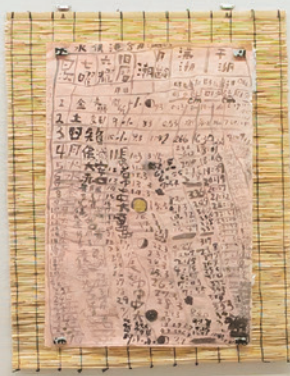
陳漢聲

遊び心のあるオブジェクト — 熊本のももの木

CHEN Han-Sheng

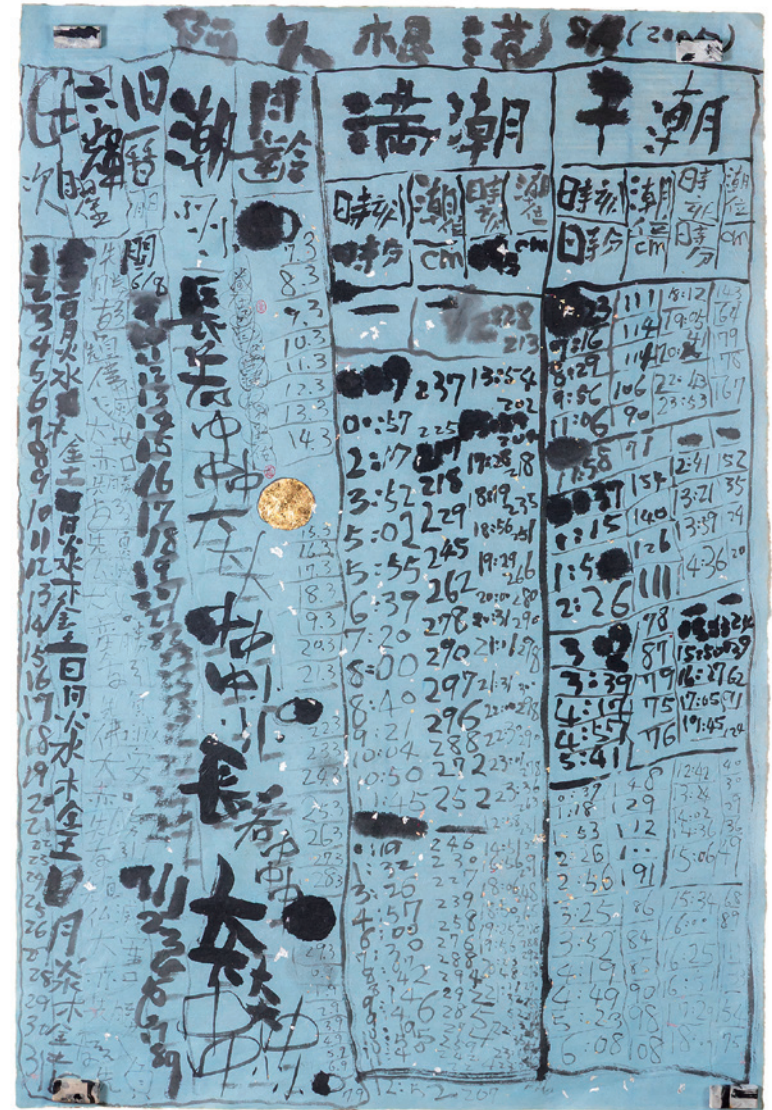
Playful Objects — A Peach Tree in Kumamoto







劉星佑 LIU Hsing-Yu
8月の牛深港 Ushibuka Port in August



劉星佑 LIU Hsing-Yu
8月の阿久根港 Akune Port in August

水俣港 8月 (2025)

日次	曜	日	月	潮	満潮	干潮
日	月	日	時分	位	時分	位
1	金	九	閏	6/8	7.3	0:23 300 13:04 263 6:57 1857
2	土	友引	9	6	8.3	0:53 283 14:21 246 7:50 128
3	日	無名	10	6	9.3	1:42 266 16:30 248 9:47 120
4	月	佛滅	11	6	10.3	3:15 254 18:01 267 2:54 18:01 267
5	火	大	12	6	11.3	4:55 247 18:56 290 2:17 18:56 290
6	水	赤	13	6	12.3	6:35 240 19:51 311 1:44 19:51 311
7	木	友引	14	6	13.3	8:20 233 20:57 329 1:14 20:57 329
8	金	先勝	15	6	14.3	10:05 226 22:05 345 1:00 22:05 345
9	土	先勝	16	6	15.3	11:50 219 23:17 356 1:00 23:17 356
10	日	無名	17	6	16.3	13:35 212 24:31 364 1:00 24:31 364
11	月	佛滅	18	6	17.3	15:20 205 25:46 369 1:00 25:46 369
12	火	大	19	6	18.3	17:05 198 27:01 371 1:00 27:01 371
13	水	赤	20	6	19.3	18:50 191 28:16 369 1:00 28:16 369
14	木	友引	21	6	20.3	20:35 184 29:31 354 1:00 29:31 354
15	金	先勝	22	6	21.3	22:20 177 30:46 329 1:00 30:46 329
16	土	先勝	23	6	22.3	0:27 170 32:01 294 1:00 32:01 294
17	日	無名	24	6	23.3	2:15 163 33:16 259 1:00 33:16 259
18	月	佛滅	25	6	24.3	4:05 156 34:31 224 1:00 34:31 224
19	火	大	26	6	25.3	5:55 149 35:46 189 1:00 35:46 189
20	水	赤	27	6	26.3	7:45 142 37:01 154 1:00 37:01 154
21	木	友引	28	6	27.3	9:35 135 38:16 119 1:00 38:16 119
22	金	先勝	29	6	28.3	11:25 128 39:31 84 1:00 39:31 84
23	土	先勝	30	6	29.3	13:15 121 40:46 49 1:00 40:46 49
24	日	無名	31	6	30.3	15:05 114 42:01 14 1:00 42:01 14
25	月	佛滅	1	7	1.3	16:55 107 43:16 14 1:00 43:16 14
26	火	大	2	7	2.3	18:45 100 44:31 14 1:00 44:31 14
27	水	赤	3	7	3.3	20:35 93 45:46 14 1:00 45:46 14
28	木	友引	4	7	4.3	22:25 86 47:01 14 1:00 47:01 14
29	金	先勝	5	7	5.3	24:15 79 48:16 14 1:00 48:16 14
30	土	先勝	6	7	6.3	26:05 72 49:31 14 1:00 49:31 14
31	日	無名	7	7	7.3	27:55 65 50:46 14 1:00 50:46 14

劉星佑 LIU Hsing-Yu
8月の水俣港 Minamata Port in August



劉星佑 LIU Hsing-Yu
筆耕練習 Cultivating Words



劉星佑
是田 I
LIU Hsing-Yu
The Redrawn Land I



劉星佑
是田 III
LIU Hsing-Yu
The Redrawn Land III

劉星佑
偶然なのか運命なのか

LIU Hsing-Yu
Chance or Fate



陳漢聲
田の神と石

CHEN Han-Sheng
Tanokami and the Stone





陳漢聲 (チェン・ハンシェン)

陳は台湾南部にある高雄市で農業を営む家庭に生まれました。大学・大学院でデザインとニューメディアアートを学んだのち、高雄を拠点に創作活動が続けながら、海外のレジデンスプログラムにも参加してきました。自然と人間の共存をテーマに自身の体験とアイデンティティを融合させた実験的なアニメーションや、ミクストメディアによるキネティックなインスタレーションは台湾内外で高い評価を得ています。「アーティスト・イン・レジデンスつなぎ2025」では、自然に恵まれた津奈木町の田の神と、海から陸に上がり、時には道路を歩く蟹に関心を寄せ、制作のモチーフのひとつとしました。金色は、宗教における神聖さと、半導体の材料であるウェハを象徴しています。田の神の像が手にしている自作の台湾の伝統工芸「春仔花」は、風に吹かれたように揺れています。また、田の神が旅をする映像や、一時帰国した際に目にした台湾産のミカンの皮をむいて食べる父親の姿に、津奈木町の特産品であるミカンと自身の思いを重ねた映像を制作しました。二番目の展示室では、これらを組み合わせた新たなインスタレーションを展示しました。

CHEN Han-Sheng

CHEN Han-Sheng was born into a farming family in Kaohsiung, southern Taiwan. After studying design and new media art at university and graduate school, he has continued his artistic practice based in Kaohsiung while participating in international residency programs. His experimental animations and kinetic mixed-media installations, which explore the coexistence of nature and humanity through his personal experiences and identity, have received acclaim both in Taiwan and internationally. In Artist-in-Residence Tsunagi 2025, Chen became interested in the *Tanokami* statues in Tsunagi—rich in natural surroundings—and in crabs that come ashore from the sea and sometimes walk along roads, and incorporated these motifs into his artworks. The color gold symbolizes both religious sanctity and semiconductor wafers. The *Tanokami* statue holds *chun zai hua* (spring flower craft), a Taiwanese traditional handicraft flower made by the artist, which sways as if blown by the wind. He also produced a video depicting the *Tanokami* traveling, and another video juxtaposing Tsunagi's local specialty mandarins with his personal reflections, inspired by the sight of his father peeling and eating Taiwanese mandarins during a visit home. In the second gallery, these elements were brought together in a new installation.





陳漢聲
スーパー田の神

CHEN Han-Sheng
Super Tanokami



陳漢聲
蟹に注意

CHEN Han-Sheng
Beware of Crabs

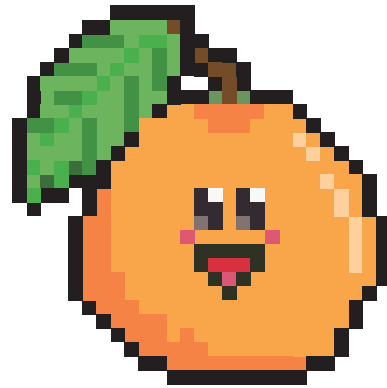
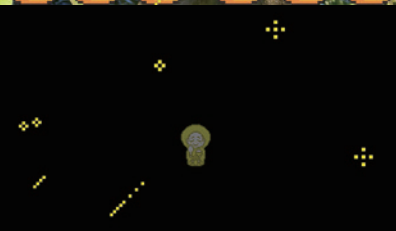
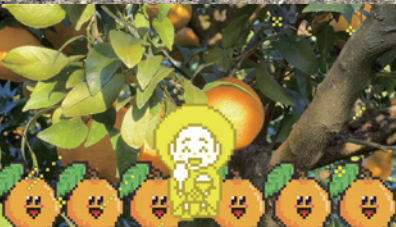
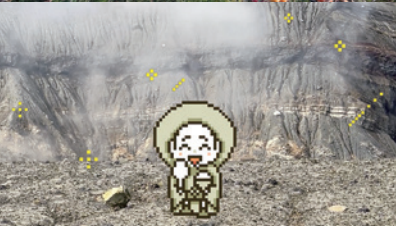
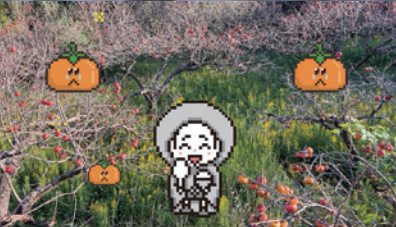




陳漢聲
田の神、南から北へ

CHEN Han-Sheng
Tanokami from South to North

※映像作品より一部抜粋して掲載。



陳漢聲
田の神と旅に出る

CHEN Han-Sheng
Traveling with Tanokami

※映像作品より一部抜粋して掲載。





劉星佑 (リウ・シンヨウ)

劉は台湾南部にある高雄市の山間部で農業を営む家庭に生まれました。大学院で美術史を修めたのち、高雄を拠点に創作活動を続けながら、海外のレジデンスプログラムにも参加してきました。2010年から続く代表作のひとつに、さまざまな土地で父親に女性の衣裳を、母親に男性の衣裳を着せて撮影した結婚写真をイメージさせる「我的父親母親」シリーズがあります。家族という私的な関係を通して、ジェンダーやセクシャリティーに関する社会的規範に問いを投げかけ、自身のみならず、困難に直面する人々にユーモアをもってエールを送るこの作品は日本でも高い評価を得ました。「アーティスト・イン・レジデンスつなぎ2025」では、両親を高雄市の実家から呼び寄せ、津奈木町の農園や水源地、熊本を代表する活火山の阿蘇などで撮影を行いました。また、津奈木町の動植物にも深い関心を寄せ、書の技法を生かし、人間と自然の関係を問う戯画的な作品も制作しました。三番目の展示室では、これらの私的な体験から社会の課題を捉え直す新作を展示しました。

LIU Hsing-Yu

LIU Hsing-Yu was also born into a farming family in the mountainous regions of Kaohsiung, southern Taiwan. After completing graduate studies in art history, Liu has continued his artistic practice based in Kaohsiung while participating in international residency programs. One of his representative series, *My Father and Mother*, which he has continued since 2010, features wedding-photograph-like portraits in which a father wears women's clothing and a mother wears men's clothing, photographed in various locations. Through the private relationship of family, this series questions social norms surrounding gender and sexuality, offering encouragement with humor both to the artist himself and to others facing difficulties. For Artist-in-Residence Tsunagi 2025, Liu invited his parents from their home in Kaohsiung and conducted photo shoots in Tsunagi's farms and water sources, as well as at Mount Aso, one of Kumamoto's iconic active volcanoes. He also developed a deep interest in Tsunagi's flora and fauna, creating caricatural works using calligraphic techniques that interrogate the relationship between humans and nature. In the third gallery, he presented new works that re-examine social issues through these personal experiences.



劉星佑
 私の父と母 — 農家から学ぶ
 LIU Hsing-Yu
 My parents — Learning from the Farmers



劉星佑
 津奈木シリーズ — 水の時間 I
 LIU Hsing-Yu
 Tsunagi Series — Shared Moment I



劉星佑
津奈木シリーズ — 水の時間 II

LIU Hsing-Yu
Tsunagi Series — Shared Moment II



劉星佑
私の父と母 — デコポン

LIU Hsing-Yu
My parents — Dekopon



劉星佑

在るかのように敬う — 津奈木の田の神 II
 在るかのように敬う — 津奈木の田の神 III

LIU Hsing-Yu

Reverence as if Present — Tanokami of Tsunagi II
 Reverence as if Present — Tanokami of Tsunagi III



劉星佑

在るかのように敬う — 津奈木の田の神 I
 在るかのように敬う — 小津奈木の田の神 IV

LIU Hsing-Yu

Reverence as if Present — Tanokami of Tsunagi I
 Reverence as if Present — Tanokami of Ko-Tsunagi IV



劉星佑
1/125秒の赤崎小学校同級生 III

LIU Hsing-Yu
Akasaki Elementary School Classmates — 1/125 Second III



劉星佑
1/125秒の赤崎小学校同級生 II

LIU Hsing-Yu
Akasaki Elementary School Classmates — 1/125 Second II



劉星佑

1/125秒の赤崎小学校同級生 I

LIU Hsing-Yu

Akasaki Elementary School Classmates — 1/125 Second I





劉星佑
田の神への擬態

LIU Hsing-Yu
Mimicry of Tanokami

※映像作品より一部抜粋して掲載。



劉星佑
阿蘇で共に過ごした時間

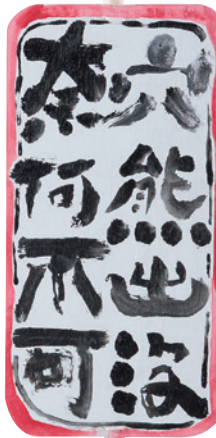
LIU Hsing-Yu
When We Were Together on Mount Aso

※映像作品より一部抜粋して掲載。



劉星佑
LIU Hsing-Yu

- A 猪突猛進
Watch Out for Wild Boars
- B ナメクジの知恵
Wisdom of the Slug
- C 非常妙見
Marvelous Encounter
- D 穴熊出没 どうしたものが
That's Life!



- E 安全第一
The Road Is Like a Tiger's Mouth
- F 減速せよ、田の神出没
Slow Life, Where Tanokami Appears
- G 蟹の横断
Cross with Love
- H 亀はゆっくり逃げ、人はゆっくり手放す
Let Life Pass



1階展示室・作品リスト

陳漢聲 CHEN Han-Sheng

田の神と蝶

Tanokami and the Butterfly
サイズ可変
陶器、刺繍糸、動力装置
Ceramics, embroidery thread,
mechanical device
2025

みかんと四季

A Mandarin and Four Seasons
145.0×90.0cm
金箔、銅箔、銀箔、親和箔、版画、手漉き和紙
Gold leaf, copper leaf, silver leaf,
colored foil, print, handmade paper
2025

田の神の祝福

Tanokami's Blessing
145.0×90.0cm
金箔、銅箔、銀箔、親和箔、版画、手漉き和紙
Gold leaf, copper leaf, silver leaf,
colored foil, print, handmade paper
2025

* 田の神と野草

Tanokami and the Wild Grass
20.0×30.0×12.0cm
陶器、紙
Ceramics, paper
2025

田の神と四季

Tanokami and Four Seasons
70.0×50.0cm
金箔、銅箔、銀箔、親和箔、版画、手漉き和紙
Gold leaf, copper leaf, silver leaf,
colored foil, print, handmade paper
2025

* 遊び心のあるオブジェクト

— 津奈木町のみかんの木
Playful Objects — A Mandarin Tree in Tsunagi
31.5×31.5×9.0cm
刺繍糸、クミミ材、磁器、動力装置
Embroidery thread, walnut, porcelain,
mechanical device
2025

遊び心のあるオブジェクト

— 熊本のもの木
Playful Objects — A Peach Tree in Kumamoto

31.5×31.5×9.0cm
刺繍糸、クミミ材、磁器、動力装置
Embroidery thread, walnut, porcelain,
mechanical device
2025

* 田の神、南から北へ
Tanokami from South to North
05'00"
映像
Video
2025

* 田の神と旅に出る
Traveling with Tanokami
10'00"
映像
Video
2025

* スーパー田の神
Super Tanokami
各7.0×12.0×5.0cm
陶器、刺繍糸、手漉き和紙、動力装置
Ceramics, embroidery thread,
handmade paper, mechanical device
2025

田の神と蟹

Tanokami and the Crab
20.0×30.0×15.0cm
25.0×35.0×18.0cm
陶器、刺繍糸
Ceramics, embroidery thread
2025

蟹に注意

Beware of Crabs
各20.0×15.0×15.0cm
3Dプリント、動力装置、UVライト
3D printing, mechanical device,
UV lamp
2025

劉星佑 LIU Hsing-Yu

旅としての祖廟参り
Ancestral Temple Visit as a Journey
サイズ可変
ポラロイド写真
Polaroid photo
2025

8月の牛深港

Ushibuka Port in August
90.0×60.0cm
金箔、手漉き和紙、墨
Gold leaf, handmade paper, ink
2025

8月の阿久根港

Akune Port in August
90.0×60.0cm
金箔、手漉き和紙、墨
Gold leaf, handmade paper, ink
2025

8月の水俣港

Minamata Port in August
90.0×60.0cm
金箔、手漉き和紙、墨
Gold leaf, handmade paper, ink
2025

偶然なのか運命なのか Chance or Fate

サイズ可変
宣紙、墨、石
Xuan paper, ink, stone
2025

田の神と石

Tanokami and the Stone
20.0×25.0×18.0cm
17.0×22.0×15.0cm
23.0×28.0×17.0cm
陶器、石
Ceramics, stone
2025

是田 I

The Redrawn Land I
184.0×96.0cm
鳥の子紙、墨、アクリル
Japanese paper, ink, acrylic
2025

是田 III

The Redrawn Land III
192.0×100.0cm
鳥の子紙、墨、アクリル
Japanese paper, ink, acrylic
2025

筆耕練習

Cultivating Words
76.0×49.0cm
墨、米袋
Ink, rice bag
2025

3階展示室・作品リスト

劉星佑 LIU Hsing-Yu

私の父と母 — 農家から学ぶ
My parents — Learning from the Farmers
60.0×39.8cm
アーカイバルビグメントプリント、
フレスコジクレー、墨
Archival pigment print,
fresco giclee, ink
2025

私の父と母 — デコボン
My parents — Dekopon
90.0×59.7cm
アーカイバルビグメントプリント、
フレスコジクレー、墨
Archival pigment print,
fresco giclee, ink
2025

津奈木シリーズ — 水の時間 I
Tsunagi Series — Shared Moment I
84.8×60.0cm
アーカイバルビグメントプリント、
フレスコジクレー、墨
Archival pigment print,
fresco giclee, ink
2025

津奈木シリーズ — 水の時間 II
Tsunagi Series — Shared Moment II
84.8×60.0cm
アーカイバルビグメントプリント、
フレスコジクレー、墨
Archival pigment print,
fresco giclee, ink
2025

* 1/125秒の赤崎小学校同級生 I
Akasaki Elementary School Classmates — 1/125 Second I
60.0×84.8cm
アーカイバルビグメントプリント、
フレスコジクレー、墨
Archival pigment print,
fresco giclee, ink
2025

* 1/125秒の赤崎小学校同級生 II
Akasaki Elementary School Classmates — 1/125 Second II
60.0×42.4cm
アーカイバルビグメントプリント、
フレスコジクレー、墨

Archival pigment print,
fresco giclee, ink
2025

* 1/125秒の赤崎小学校同級生 III
Akasaki Elementary School Classmates — 1/125 Second III
60.0×42.4cm
アーカイバルビグメントプリント、
フレスコジクレー、墨
Archival pigment print,
fresco giclee, ink
2025

在るかのように敬う — 津奈木の田の神 III
Reverence as if Present — Tanokami of Tsunagi III
60.0×42.4cm
アーカイバルビグメントプリント、
フレスコジクレー、墨
Archival pigment print,
fresco giclee, ink
2025

在るかのように敬う — 津奈木の田の神 I
Reverence as if Present — Tanokami of Tsunagi I
60.0×84.8cm
アーカイバルビグメントプリント、
フレスコジクレー、墨
Archival pigment print,
fresco giclee, ink
2025

在るかのように敬う — 小津奈木の田の神 IV
Reverence as if Present — Tanokami of Ko-Tsunagi IV
60.0×84.8cm
アーカイバルビグメントプリント、
フレスコジクレー、墨
Archival pigment print,
fresco giclee, ink
2025

在るかのように敬う — 津奈木の田の神 II
Reverence as if Present — Tanokami of Tsunagi II
60.0×42.4cm
アーカイバルビグメントプリント、
フレスコジクレー、墨
Archival pigment print,
fresco giclee, ink
2025

* 阿蘇で共に過ごした時間
When We Were Together on Mount Aso
3'30"
映像
Video
2025

* 田の神への擬態
Mimicry of Tanokami
05'00"
映像
Video
2025

穴熊出没 どうしたものが
That's Life!
150.0×40.0cm
墨、アクリル、木材
Ink, acrylic, wood
2025

安全第一
The Road Is Like a Tiger's Mouth
150.0×40.0cm
墨、アクリル、木材
Ink, acrylic, wood
2025

蟹の横断
Cross with Love
150.0×40.0cm
墨、アクリル、木材
Ink, acrylic, wood
2025

非常妙見
Marvelous Encounter
150.0×40.0cm
墨、アクリル、木材
Ink, acrylic, wood
2025

ナメクジの知恵
Wisdom of the Slug
150.0×40.0cm
墨、アクリル、木材
Ink, acrylic, wood
2025

亀はゆっくり逃げ、人はゆっくり手放す
Let Life Pass
150.0×40.0cm
墨、アクリル、木材
Ink, acrylic, wood
2025

減速せよ、田の神出没
Slow Life, Where Tanokami Appears
150.0×40.0cm
墨、アクリル、木材
Ink, acrylic, wood
2025

猪突猛進
Watch Out for Wild Boars
150.0×40.0cm
墨、アクリル、木材
Ink, acrylic, wood
2025

関連プログラム



A オープニングトーク

12月6日 つなぎ美術館アトリエ

陳漢聲 劉星佑 謝宇婷 (インディペンデントキュレーター)

B ハーベストトートバッグを作ろう

10月25・26日 つなぎ百貨堂広場

陳漢聲



C 津奈木中学校鑑賞授業

12月19日 つなぎ美術館1・3階展示室

陳漢聲 劉星佑



D 津奈木中学校出張授業

12月22日 津奈木中学校

陳漢聲 劉星佑



Walking Grass Agriculture

Awards

2023 "LIKE WATER NFT Art Award - Peace and Sustainability", third place, Taiwan

2022 "National Art Exhibition, ROC", Finalist, Taiwan

2018 "Taipei Art Awards", Taipei Fine Arts Museum

Collection

2023 Kaohsiung Museum Of Fine Arts, Kaohsiung, Taiwan

Group Exhibitions

2026 "Withdrawal: Our Collective Existence" MOCA Taipei, Taipei, Taiwan

2025 "Matsu Biennial Pha-jiu: Your Sea, My Land" Dongyin, Lienchiang County, Taiwan

2025 "Still Life" Taipei Fine Arts Museum, Taipei, Taiwan

2025 "Fables of the Eye Ball Generation", Kaohsiung Museum of Fine Arts

2024 "Reimagining the Children's Encyclopedia" Taoyuan children's art center, Taoyuan, Taiwan

2024 "Queer Kitchen" WORM/Rotterdam, Netherlands

2024 "Open day in VerhalenDepot" VerhalenDepot, Rotterdam, Netherlands

2024 "PCREATIVE EXPO TAIWAN#Still life theater" Taiwan Cultural and Creative Park (MoreReal Lab), Tainan, Taiwan

2024 "Interested Persons" MoCA Taipei, Taipei, Taiwan

2024 "Raw Hualien - HUALIEN PERFORMING PUBLIC SPACE FESTIVAL" Cultural Affairs Bureau Hualien, Hualien, Taiwan

2024 "VOC, Sea Monsters, Artillery Fire, and Them: 400 Years of Fort Zeelandia" Tainan Art Museum, Tainan, Taiwan

2023 "Matsu Biennial" Dongyin, Lienchiang County, Taiwan

2023 "PCREATIVE EXPO TAIWAN" C-LAB, Taipei, Taiwan

2023 "Present Tense 2023: Perilous Playground" Chinese Culture Center of San Francisco, San Francisco, U.S.

2022 "Once within Borders" NEIWEI arts center, Kaohsiung, Taiwan

2022 "Mattaaw" Tsung Yeh Arts and Cultural Center, Tainan, Taiwan

2022 "Hotel YOLO" The Pier-2 Art Center, Kaohsiung, Taiwan

2021 "HUALIEN Q&A - HUALIEN PERFORMING PUBLIC SPACE FESTIVAL" Cultural Affairs Bureau Hualien, Hualien, Taiwan

2021 "A Rhythm of Tree Forming the Forest" Chiayi Art Museum, Chiayi, Taiwan

2021 "The Circuit of Folk Beliefs" Tainan Art Museum, Tainan, Taiwan

2021 "Signals: CREATORS 2020-21", C-LAB, Taipei, Taiwan

2019 "COSMOPOLIS #2 - REPENSER L'HUMAIN" Centre Pompidou, Paris, France

2018 "Taipei Art Awards", Taipei Fine Arts Museum

Residency

2024 WORM, Rotterdam, Netherlands

2020 C-lab creators, Taipei Taiwan

2020 Chiayi Art Museum

CHEN Han-Sheng

Education

2015 The Institute of New Media Art, Taipei National University of the Arts

Awards

2019 "Art Olympia", Honorable mention, Tokyo, Japan
2019 "EDITION OF MIMIARTEXTILE", former church of San Francesco, Italy
2018 "Esplugues Angelina Alós 19th", Can Tinturé Museum
2018 "Made In Taiwan", Ministry of culture
2018 "2018 National Art Exhibition,ROC", Finalist, Taiwan
2016 "Hualien Art Exhibition", First Prize, Taiwan
2016 "2016 National Art Exhibition,ROC", Finalist, Taiwan

Collection

2025,2023-2022,2020,2015 Art Bank Taiwan, National Taiwan Museum of Fine Arts, Taichung, Taiwan
2024 VerhalenDepot, Rotterdam, Netherlands
2021 National Kaohsiung University of Science and Technology, Kaohsiung, Taiwan
2017 White Rabbit Gallery, Australia, Directions
2016 Hualien Art Museum, Taiwan
2015 Young Artist Collection, National Taiwan Museum of Fine Arts, Taichung, Taiwan
2015 Tainan Art Museum, Tainan, Taiwan

Solo Exhibitions

2022 "From view to landscape all at once", Taipei Dangdai, Taipei, Taiwan
2019 "After the Explosion", Powen Gallery, Taipei, Taiwan
2019 "Once lake — Field now", Multiple Screens, National Taiwan Museum of Fine Arts, Taichung, Taiwan

Group Exhibitions

2025 "Reunion at the Courtyard" Chiayi Art Museum, Chiayi, Taiwan
2022 "2022 Changwon Sculpture Biennale" Changwon, Korea
2021 "WOMEN: From Her to Here" Chinese Culture Center of San Francisco, San Francisco, U.S.
2020 "Survival of the exceptional" Tainan Art Museum, Tainan, Taiwan
2020 "Re-Visiting Landscape" Chiayi Art Museum, Chiayi, Taiwan
2020 "Kaohsiung Award" Kaohsiung Museum of Fine Arts, Kaohsiung, Taiwan
2020 "POP UP MIMIARTEXTIL" Le Beffroi Cultural Space, Monrouge, France
2019 "Lishui Photography Festival-Artificial Landscape" Art35, Zhejiang, China
2019 "POP UP MIMIARTEXTIL" San Francesco, Como, Italy
2018 "Esplugues Angelina Alós 19th", Can Tinturé Museum, Spain
2018 "ART TAIPEI", Taipei World Trade Center, Taiwan

Residency

2021 Taipei Artist Village, Taipei, Taiwan
2018 The PIER-2 Art Center, Kaohsiung, Taiwan

LIU Hsing-Yu

Education

2014 M.F.A., Department of Fine Arts, National Kaohsiung Normal University, Taiwan

Awards

2024 "KG+Select Award 2024" First Prize, KYOTOGRAPHIE, Japan
2023 "LIKE WATER NFT Art Award - Peace and Sustainability", third place, Taiwan
2022 "National Art Exhibition,ROC", Finalist, Taiwan
2021 "Pingtung Awards", Finalist, Taiwan
2020 "Yilan Art Awards", Finalist, Taiwan
2018 "Taipei Art Awards", Taipei Fine Arts Museum, Taiwan
2018 "2018 National Art Exhibition,ROC", Finalist, Taiwan
2016 "Wonder Foto Day" Grand Prix award

Collection

2025 Tomio Koyama Gallery, Tokyo, Japan
2025-2024 Art Bank Taiwan, National Taiwan Museum of Fine Arts, Taichung, Taiwan

Solo Exhibitions

2025 "What is the level of water in a dipper? Walking Grass Agriculture CHEN Han-Sheng & LIU Hsing-Yu Dual Solo Exhibition", Tsunagi Art Museum, Kumamoto, Japan
2025 "Entangled? Returning to Foolishness? LIU, Hsing-Yu Solo Exhibition" Liang Gallery, Taipei, Taiwan
2025 "ART TAIPEI" Taipei World Trade Center, Taipei, Taiwan
2025 "My Parents and I" KYOTOGRAPHIE, Gallery SUGATA, Kyoto, Japan
2021 "I am lenient because I have learned" Mizuio Workshop, Tainan, Taiwan

Group Exhibitions

2026 "Hybrid Art Fair 2026", Petit Palace Santa Bárbara, Madrid, Spain
2025 "Matsu Biennial Pha-jiu: Your Sea, My Land" Dongyin, Lienchiang County, Taiwan
2025 "Skyfall", MONAT Gallery, Madrid, Spain
2024 "KG+Select" Horikawa Oike Gallery, Kyoto, Japan
2024 "Queer Kitchen" WORM/Rotterdam, Netherlands
2024 "Touching:Material-Makers and Their Worlds" Hsinchu City Art Gallery, Hsinchu, Taiwan
2024 "Kupper Art Fes Khon Kaen Innovation Center(KIC)", Thailand
2023 "10th Kaohsiung international steel & iron sculpture festival, everything is connected", The Pier-2 Art Center, Kaohsiung, Taiwan
2022 "What If Attitudes Become Letters? Writing - Correspondence - Context - Gender - Meme" Hengshan Calligraphy Art Center, Taoyuan, Taiwan
2021 "Pingtung Awards", Pingtung art museum, Pingtung, Taiwan
2020 "The Art of Transformation" National Taiwan Craft Research And Development Institute, Nantou, Taiwan
2019 "Lishui Photography Festival-Artificial Landscape" Art35, Zhejiang, China
2018 "IN BALANCE : Taiwan-Sicity" Torre di Ligny, Trapani, Italy
2018 "Bangkok Biennial", TENTACLES, Bangkok, Thailand

Residency

2019 Art35, Zhejiang, China
2018 Tentacles, Bangkok, Thailand

アーティスト・イン・レジデンスつなぎ2025

走路草農藝園 陳漢聲&劉星佑 デュアル個展

おたまの中の水はどのくらい？

滞在期間 2025年8月2日～2026年1月20日

展覧会期 2025年12月6日～2026年2月23日

企画・運営 楠本智郎 木下裕介（学芸アシスタント／地域おこし協力隊）

運営 櫻燭啓子（地域おこし協力隊） 山内充（地域おこし協力隊）

西川久美子（地域おこし協力隊）

制作協力 齋藤由佳 齋藤聡子 林田良治 金刺潤平

企画協力 葉佳蓉（鳳甲美術館館長）

主催 つなぎ美術館（津奈木町）

助成  文化黒潮

記録集

編集 楠本智郎 木下裕介 石井克昌

執筆 楠本智郎

翻訳 柳元子

写真 [作品・展覧会場・制作風景] 小田崎智裕

[関連プログラム] つなぎ美術館

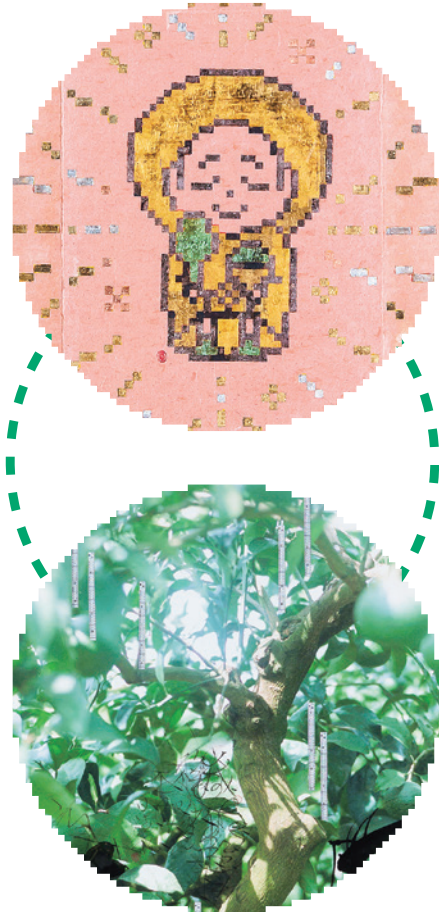
デザイン 石井克昌

発行元 つなぎ美術館（津奈木町）

発行日 2026年3月27日



つなぎ美術館
TSUNAGI ART MUSEUM



What is the level of water in a dipper?

Walking Grass Agriculture CHEN Han-Sheng & LIU Hsing-Yu

The concluding solo exhibition of Artist in Residence Tsunagi 2025

Dual Solo Exhibition